

## 中学校社会科（歴史的分野）学習指導案

### 1 単元名 東アジアの中の日本 ～ムラからクニへ～

#### 2 単元目標

- ・縄文時代や弥生時代の人々の暮らし、クニが出現した経緯、ヤマト王権と大陸との関係についての関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 【関心・意欲・態度】
- ・縄文時代、弥生時代、ヤマト王権の特色やしくみを、具体的な遺跡や資料をもとに考え、適切に表現しようとしている。 【思考・判断・表現】
- ・クニの発生にいたる過程を各種の資料を収集し、適切に選択し読み取っている。 【技能】
- ・日本に稲作が伝わったことで、貧富や身分が生まれムラやクニが成立したこと、その後朝鮮半島とのつながりからヤマト王権が支配を強めていく経緯を理解し、その知識を身につけている。 【知識・理解】

#### 3 単元について

博物館を何度か見学させて頂いた時に、自分自身が大きな感動を得たのが、体験ができる展示コーナーであった。その中でも、特に銅鐸のレプリカを実際に持った時の重量感はインパクトが強く、是非生徒にも体験させたいと思った。このように、レプリカや実物に触れ、そのものの質感や重さなどを肌で感じ、その時代のことを想像しやすく、手がかりになるものを提供して頂けると、生徒の興味・関心に強く訴える授業が展開できると考えた。

そこで、弥生時代以前は狩猟・採集を中心に行っていた人々の生活が、大陸から稲作が伝わってきたことで、農耕の広まりとともに生活に変化をもたらした。さらに農耕の作業効率を上げるために共同して作業し、道具を開発するに至った。さらに富が生まれたことから争いが生まれ、ムラという小さな集落から、クニという大きな共同体へと人々の生活の場が変化し、王となる存在が様々な権威を手に入れクニを統治していたことを、横浜市歴史博物館にある資料をもとに考え、イメージをふくらませたい。

#### 4 指導計画 (4時間)

主な学習活動と内容	主な資料 (●) と教師の支援 (◇)
1 土器が生まれた縄文時代 ・狩猟、採集を中心に行っていた縄文時代の人々の生活を考える。	●縄文カレンダー、縄文土器（実物）を提示し、縄文時代の人々がどんな生活をしていたか、想像させる。
2 稲作による生活の変化 ・稲作や青銅器・鉄器などが大陸から伝わることで、日本列島ではどのように生活が変わったかを考える。	◇大陸とのかかわりの変化によって、生活が変わり時代が移っていくことに気づかせる。 ●ムラのジオラマ（写真）、実物の石器，土器，金属器などでできる限り視覚に訴える資料を提示する。

<p>3 ムラからクニへ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本時</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・矢じり、環濠集落、人骨の資料から弥生時代に争いがあったことを資料から読み取る。</li> <li>・銅鐸、『「魏志」倭人伝』、金印から、どのように人々を従えたのかを考える。</li> </ul> <p>4 鉄から見えるヤマト王権</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄と前方後円墳はなぜ各地に広まったのかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●矢じり、環濠集落、人骨から、弥生時代の生活を想像させる。</li> <li>●『「魏志」倭人伝』、金印から、権威を使ってクニを統治したことを気づかせる。</li> </ul> <p>◇資料から争いがあったことに気づかせる。また、人々を従わせるために支配者は権威を手に入れたことに気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●前方後円墳のジオラマ、写真を提示し、その用途、大きさ、作るのに要した時間や人数を想像させる。</li> </ul> <p>◇ヤマト王権が朝鮮との関係を優位にするために、中国に使いを送ったり、朝鮮半島の国と戦ったりしたことを理解させる。</p>
--	---

## 5 本時目標

- ・弥生時代にムラからクニに変化していったことに関心を持ち調べようとしている。

【関心・意欲・態度】

- ・弥生時代の争いを通してクニが成立し権威を使って支配していたことを資料から考え表現している。

【思考・判断・表現】

## 6 本時展開

学習活動と内容	主な資料（●）と教師の支援（◇）
○弥生時代以降、なぜ矢じりが大きくなっていったのかを考える。	●弥生時代前期と後期の矢じりの写真資料を示し矢じりがなぜ大きくなっていったのか、またどのように使われたか、自由に考えさせ、考えたことをあげさせる。
○写真資料（甕棺の中の頭部の無い人骨）を見て、戦争があったことを理解する。	◇写真資料（甕棺の中の頭部の無い人骨や大きくなった矢じり）も提示し、戦争があったことを理解させる。
○模型資料（環濠集落）のようすを見て、集落の特徴を考える。また、その特徴は何のためのものだったか考える。	◇環濠集落のようすを描いたジオラマを見て、集落の中にどんな特徴が見られるか挙げさせる。集落間・地域間の戦争が起こっていたことが集落にのようすを変化させていたことに気づかせる。
○銅鐸、銅剣、銅矛、銅鏡などの弥生時代の遺跡のレプリカに触れて、その時代の技術やどんなことに使われたか想像する。	◇銅鐸、銅剣、銅矛、銅鏡などのレプリカを持って重さや材質を感じたり、観察して模様を確かめたりする。 ●銅鐸、銅剣、銅矛、銅鏡のレプリカ（歴博の資料）など。

<p>○時代が進むにつれて銅鐸が大きくなることに注目し、どんな目的で大きくなり使用されたのか、考える。</p>	<p>◇発見された銅鐸の中で、最大級のものの大きさを示し、銅鐸がなぜ大きくなっていったか、またどのように使われたか、自由に考えさせ、考えたことを挙げさせる。</p> <p>●発見された銅鐸の最大級のものの大きさを模型で示す。</p>
<p>○「漢委奴国王」と彫られた金印のレプリカと、その文字を拡大したものを見て、どんな意味があるのかを考える。</p>	<p>◇銅鐸が大きくなったことと合わせて、クニを統治するための権威の象徴が必要になったことに気づかせる。</p>
<p>○「魏志」倭人伝に出てくる邪馬台国、卑弥呼の記述を見て、権威を使ってクニを統治しようとしたことを理解する。</p>	<p>◇「魏志」倭人伝に出てくる邪馬台国、卑弥呼の記述を紹介し、まじないを権威として統治したことを理解させる。</p>

## 7 博物館との連携

銅鐸、銅剣、銅矛、銅鏡のレプリカ、矢じりの写真パネル、金印のレプリカ、環濠集落のジオラマ等の借用資料



体験コーナー（複製）



銅鐸に描かれた絵・体験コーナー



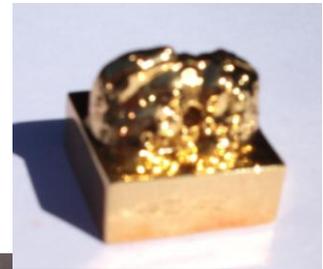
体験コーナー（複製）



体験コーナー（複製）



横浜市歴史博物館販売「おながすいたはらぺこだP5」



金印複製



常設—原始Ⅱ



常設—原始Ⅱ